
森の進化会議

ピクチャー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

森の進化会議

【Zコード】

Z2885M

【作者名】

ピクチャード

【あらすじ】

オレの名前はロケ・サンタクルス。世界を旅して絵を描いている。聞こえはいいが、その日暮らしの”さすらいバックパッカー”である。

オレは今、とある国のオープンカフェで遅めのランチ、おつと、O-L風に言つたらブランチを勢いよく腹にぶつ込んでいるわけだ。食べているのは【キノコとツナのパスタ】と【グリーンハーブティー】だ。勢いよく腹にぶつ込んでいたのには訳がある。ここ数日間、砂漠で遭難しちゃつてたんだよね。なんとか水筒の水とチョコレー

ト、サボテンの実に含まれる水分などでギリセーフだつたけど、ま
じでバツドだつたぜ！注文する時、店員さんに「大盛りで！」と言
つたらキッチンの方から大森という日本人女性が出てきたときはマ
ジ笑えなかつたぜ。

夢へ世界遺産（前書き）

前書きはありませんが、読んだあとで、あなたの心に前書きが生まれる」とあります。

オレの名前はロケ・サンタクルス。世界を旅して絵を描いている。聞こえはいいが、その田暮らしの”さすらいバックパッカー”である。

オレは今、とある国のオープンカフェで遅めのランチ、おつと、O-S風に言つたらブランチを勢いよく腹にぶつ込んでいるわけだ。食べているのは【キノコとツナのパスタ】と【グリーンハーブティー】だ。勢いよく腹にぶつ込んでいたのには訳がある。ここ数日間、砂漠で遭難しちゃつてたんだよね。なんとか水筒の水とチョコレート、サボテンの実に含まれる水分などでギリセーフだつたけど、まじでバッドだつたぜ！注文する時、店員さんに「大盛りで！」と言つたらキッチンの方から大森という日本人女性が出てきたときはマジ笑えなかつたぜ。

大森「お客様呼びましたか？」

サンタクルス（以下サン）「え？誰？」

大森「アルバイトの大森ですけど」

サン「あー、なんかアルバイト出てきちゃつたよ」

このくだりいる？ いらないよね？ でもこの子の笑顔がものすごい可愛らしかったから、砂漠での疲れも吹き飛んだよ。この先オレと結婚することになるとは全く予想してなかつたな。

食べ終わり、会計を済ませ、チップを置いて席を立とうとするべく、

妙な高揚感におそわれた。なんだか最高にハイだ！今すぐでもキンブファイヤーしたい！チラッと横を見ると、アルバイトの大森がこう言つた。

大森「お客様さん、見た感じすうらじの絵描きさんでしょ？」

サン「そうだす、オラ絵描きだす」

大森「そりだと思つてキノコのパスタにマジックマッシュルーム入れておいたの？」

サン「え？まじで？！」

大森「まじですか？マッシュルーム好きかな～？と思つて」

サン「うん！好きだす！うわー、そりやハイになるはずだわー！」

大森「良かった、喜んでもらえて？」

後に聞いたのだが、彼女はオレに一目惚れしていたらしい。そういうオレも彼女を一目見た時から恋をしていたのだ。彼女は連絡先を書いたメモをオレに渡し、戻り際に振り向いて一言こう言つた、

大森「私の名前、ナナコ！」

そして二コつと笑つて彼女はキッチンへ戻つて行つた。オレはその後、驚く程ぐるんぐるんになり、気づいたら浜辺のヤシの木に登

つていた。ヤシの木から沖の方を見てみると、遠くの方にポツンと浮かぶ小さな島を見つけた。ビーチを歩く少年たちにあの小さな島は何という島なのか聞いてみると、その中の一人がこう答えた。

少年マツコリ「あの島はねー、”神々が住む島”だつてじいちゃんが言つていたよ。島には大きな森があつてたくさんの珍しい動物たちが暮らしてゐるって聞いたことがあるよ。でも今は海流が変わつてあの島に行くことは出来ないんだつてさ。」

サン「少年よ、ありがと!」

そう言つとオレは、お礼として少年にヤシの実をあげようと、ヤシをひきちぎり下へ落とした。

『パン!..』

鈍い音と共に、少年マツコリは膝から崩れ落ちた。数分後、少年マツコリの友達と思われるちびっこ集団に、ヤシの木のまわりを包囲されていた。

少年達「お前は包囲されてるー早く降りていこうー!」

軽くイラつとしたオレは、すぐに降りていつた。

サン「ひぬせーーーぶつ殺すぞーーー!」

子供達はピビッて帰宅。子供はキライだ。

動物好きのオレとしては、少年マツコリの言つていた”神々が住

む島”に行き、珍しい動物たちとやらを描きたくなつた。

数日後、オレはあの島のことが気になつて町で島のことを聞いてまわつていた。すると、ひとりの老人がスタッフと近づいてきたと思つたら通り過ぎていった。島へ行くには船では行けない、とするべりか・・・しかしベリも上空の突風の影響により、飛べない空域となつてゐるらしい。海もダメ、空もダメ、となると残す選択はただひとつ、地面を掘つて進むしかない！まるで夢物語、無理だ。だけどオレ、諦められないよ！情熱に火が着いちゃつたし！

「情熱よ 弾けて混ざれ 夢の人」これが死んだじいちゃんの口癖だつた。どんなに困難なことでも、努力次第で結果がついてくるつて言つてたつけ。だからオレ！地面を掘るよ！

十年後、オレは33才になつていた。今日も地面を掘り続けている。島までの距離はあと数百メートル、今では少年マツコリも穴堀りの手伝いをしてくれている。いや、もう青年マツコリか。

「はー、お茶」

そう言つてさしだしてくれたのはオレの奥さんのナナコだ。ナナコとは、オレが30の時にプロポーズして結婚した。お互い子供はキレイなので自由きままに穴堀りの応援をしてくれている。なんでこんなに自由きままかつて？それはオレが23歳の時に描いた絵が、ローマ法王に入られ、300億円で買い取つてもらつたからだ。そう、あのヤシの木から見える景色をキノコを食つた時に描いてい

たんだ。それにしてもA4サイズの絵で300億円にはびっくりしたが、最初は3万円から始まつたヤフーオークションが、300億円になるなんて、夢のようだな。だがこれも事実、オレの絵は夢の世界に通じているからな。

人生なにがあるかわからない！だからおもしろい！道がなければ作ればいい。全ての道はつながっているのだから。

これまで掘り進める中で、様々な問題があつた。笑えることから、頭を抱えること。しかし、あと数百メートルに近づいたその時、これまでにない大きな問題にぶちあたつた。それはといふと、なんとも大きな石造物が目の前にあらわれたのだ。

サン「おー、どうなってるんだ！？なんでこんなところに神殿が…」

青年マジコリ「あわわわわわ…！？」昔じいちゃんが言つて、た！太古の時代に海の底に沈んだ神殿があると…」

サン「お前、キャラみつけたな」

青年マジコリ「…神殿の名前はランテ・ランサ」

ナナ「しかし邪魔だねこの神殿…サン！爆破しちゃおつか

？」

青年マジコリ「え！？何言つてんスカ！？」

サン「やうだね！やつちやおつか！」

青年マジ「コリ「は!?ダメですよー!ランテ・ランサはそれこそ世界遺産ですよー!」

サン「男にはな、自分の夢より大きなものはないんだよ。」

ナナコ「夢へ世界遺産」

サン「オレの夢の邪魔をするやつは、ほんじんだぜ！ ナナ！」
神殿爆破！

ナナコ「ブラジヤー！」

青年マツコリ「ツツええええーーー！」

ナナコ「3、2、1：爆破？！」

ズゴーン！――――――――――――――――

サン「よしー先へ進もうー島までもう一息だぜー。」

と並うのと同時に、ほぼ壊れかけた神殿の奥からひとりの老人が現れこちらに近づいてきたと思つたら通り過ぎていった。なんなんだよ一体。

青年マッシュ「うう、なんなんすか今のじこわんー?」

ナナコ「帰つたんだよ家に」

サン「帰りを待つ人のもと。おー、それよりマッシュ」「コー・モウジ
き結婚するつて聞いたぞ! よかつたじやねえか!」

青年マッシュ「そ、うなんすよー」この島が開通したら結婚するつて
プロポーズしたんですよー!」

ナナコ「よかつたね! ナターシャちゃんも喜んでたでしょ?」

青年マッシュ「はー! 彼女の雑貨屋に通い詰めた甲斐がありまし
たよ!」

サン「じつ、静かに…何か音がする…」

すると暗がりから一匹の真つ白な犬が出てきた。

イヌ「イテテテテテ、一体ナンダツテンドー? 急に爆発しやがっ
た。」

ナナコ「イヌがしゃべった? サン! 私のイヌほしー! ?」

サン「いいよーイヌーお前しゃべれるのか?」

イヌ「うふ。名前はジョンナー口・ガットウーブ、神殿の守り神
だよ!」

青年マッシュ「あわわわわわ

サン「神殿邪魔だつたから爆破したけど許してね。」

ガットウーズ「別にいいですよ。すでに沈んだ神殿だし、当時も守りきれなかつたし（笑）」

サン「ものわかりのいい子だ。オレはロケ・サンタクルス、サンつて呼んでくれ！」

ナナコ「わたしナナコ？これからよろしくね？」

青年マッコリ「あわわわわわわわ

サン「こいつは青年マッコリ、ま、いわばこいつ立位置のやつだ。よろしく頼むよー！」

ガットウーズ「わん！」

それからオレたちは、ひとまず家に帰つたんだ。色々なことがあって少し疲れたからな！その晩に奇妙な夢を見た。けど忘れちつたぜ！次の日、青年マッコリの仲間が穴堀りを手伝つてくれると言つていただけど断つた。理由は大人数が苦手だからだ。

あと少し！あと少しで念願の、あの”神々が住む島”に通じる道が完成する！！今日には開通させるぞ！！そう思った時、一本の電話がかかってきたんだ。

続く

夢へ世界遺産（後書き）

はじめて小説を書き始めました。読者の皆様、私がピクチャーです。
以後お見知りおきをお願いします。普段は絵を描いています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2885m/>

森の進化会議

2010年10月15日22時32分発行